

## 滋賀県文化審議会第 17 回会議概要

- 1 日 時 平成 29 年 2 月 2 日（木）10:00～12:00
- 2 場 所 滋賀県庁本館 4 A 会議室
- 3 出席者 委 員：中川委員（会長）、辻委員（会長代理）、東委員、伊熊委員、川戸委員、杉江委員、立岡委員、寺嶋委員、殿村委員、富永委員、平松委員、三田村委員、南委員（13 名出席）  
事務局：県民生活部浅見次長、森管理監、文化振興課田島課長、馬渕新生美術館整備室長、小林参事、野瀬課長補佐ほか

### 4 議 題

- (1) 滋賀県文化審議会評価部会の審議内容について
- (2) 滋賀県文化審議会次世代育成部会の審議内容について
- (3) その他
- ア 人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略
- イ 文化プログラムについて

### 5 概要

- (1) 滋賀県文化審議会評価部会の審議内容について
- 県内の担当者会議を設けてはどうか。政策担当者の会議と、アートマネジメントの現場を担当する会議と 2 つ必要だと思う。事業企画の政策を調整する会議がなくなっている。それがなければ、2020 年のオリパラを迎え撃つ事業の協調体制や協力体制がとりにくいだろう。
  - アートマネジメント講座に政策学習みたいなものも加われば参加者も増えるだろう。
  - アートマネジメント講座について、市町のホール担当者にも受講を呼びかければ、市町のホールももっとレベルアップするのではないか。文化振興課は政策・企画、びわ湖ホールはアートマネジメントの実技を教えていく。県とホールが一緒に共催でやるみたいな仕組みがあっても良いのでは。
- (2) 滋賀県文化審議会次世代育成部会の審議内容について
- ホールの子事業
    - ・ 参加状況について、偏り、地域によって参加できているところ、参加できていないところがある。内容については、こなれてきてそれなりの成果も出て来ている。参加する児童のマナーづくりにも役立っている。
    - ・ 子どもたちには、音響等の面もあるので、是非、びわ湖ホールで体験してもらいたい。

#### ○次世代文化賞受賞者展

昨年、初めて近代美術館ギャラリーで開催され、日の目をみた。いい展覧会だった。

#### ○アートマネジメント研修

アートマネジメントの講座について、受講者が活躍する場がない。展覧会をするときの補助をしてもらうなど、マネジメントに関われるようにしていくべきではないか。

#### ○アートにどぼん

美術館のアピールをしているが今年で3回目。あと数年なので、もう少しレベルアップしてもいいのかなと思う。同じようにやっていくとどうしてもルーティンワークになってしまう。

#### ○広報

広報活動について、アートにどぼんのことを知らなかった。やはり、広報活動は重要である。

#### ○びわ湖ホール事業

シェークスピアのオセロに参加する子どもたちが少なかった。入場料が高いのでは。びわ湖ホールのオペラについても子どもたちをもっと招待して欲しい。

#### ○文化賞、次世代文化賞

- ・ アートマネジメント賞のようなものを作ってみてはどうか。音楽やアートは才能のある一部の人だけのものではなく、それを支える人たちによって成り立っている。
- ・ 賞を授与するだけではだめ。県のHPに顔写真やプロフィールを入れて紹介するだけで違う。受賞者がそれをリンクして自分で仕事を取りに行くこともできる。
- ・ 推薦については、特定の派閥、流派に影響されないということには留意する必要がある。

#### ○表舞台と裏方について

次世代の子どもたちに、裏方の仕事を体験させることは将来につながることから、重点的に取り組んでいただきたい。

#### ○外部環境との整合性

文化と街づくり、人づくり、地域経済の活性化が関連付けて事業がされているので、その観点から考えた評価基準や次世代の育成が必要。アートがどのように街づくりや人づくりと整合性をとって活用できるか。外部環境との接点をいかに見つけていくか。観光にとって文化は貴重な資源。

### (3) その他

#### ア 人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略

- 観光、人口減少を食い止める、地域産業を興す等の主な柱が国から示されている。

イ 文化プログラムについて

- 文化プログラムの策定は、県内の市町、関係団体と協議するチャンス。冠事業でもよい。その市町の特筆すべきイベントを選んで、オリパラに向けた機運を醸成する。市町にとってもレベルアップするチャンスだ。県が、市町、NPO、民間団体とネットワークを作る絶好のチャンスになる。
- 首都圏の情報発信拠点を活用し、東京でもPRして欲しい。

ウ その他（文化プログラムを中心として）

- 経済界との価値の共有化が必要だが、文化の価値について、経済界では価値を共有するための知識や経験が少ないので、文化から寄って来てほしい。
- 企画をする段階から出来るだけ大学生を含めた若い人を巻き込んでやって欲しい。様々な政策が行われているが、それが若者には伝わっていない。
- 高齢者の人口が増えている。文化振興を図る上で高齢者を活用して欲しい。文化振興基本方針における県立文化施設の文化ボランティアの数が増えていない。ボランティアなどで高齢者が活躍できるプログラムを作って欲しい。
- 人口減少対策として、市町で文化事業をできないか。そうすれば、文化事業の底辺も広がる。
- オンリーワンで目立つという事が必要。これはここにしかないということが重要。滋賀県のアール・ブリュットは世界的には関心が高い。これを世界的ブランドにし、さらに、それ以外の、例えば、仏像などに関心を広げていくと良いのではないか。
- 障害者が人口のうち一定の割合を占めている。それらの人たちにやさしい宿泊施設、観光施設など受け入れ態勢の整備やこのような人たちを雇用するための活動をしている。労働生産性の高い人たちもいるので、まず、文化で導入し、そこから、経済や観光につなげてほしい。
- 総合戦略に結婚、出産、子育ての滋賀プロジェクトがあることから、絵本という切り口で施策をお願いしたい。子育てするうえで、自然環境が素晴らしい。琵琶湖の保全及び再生に関する法律ができたので、これを文化の側面からバックアップする施策やプロジェクトが出来たらいい。
- 近代美術館の「ウォルター・クレインの本の仕事」は、全国で2か所だけの展覧会。もっと宣伝して欲しい。ボランティアの数が増えていない。ボラ

ンティアは文化のサポーター、応援団である。もっと、たくさんの方にかかわって欲しい。

- 若い人に演奏の機会を与えて欲しい。市町であまり稼働していないホールがあるらしいが、地域の活性化になるので、連携して欲しい。
- 滋賀県の学生は、「うみの湖」での体験について話し、その話を聞いた県外の学生が、船に乗りたいという。ホールの子事業も、県民全てが語れるようなレベルになれば、県外の人も巻き込める。
- アール・ブリュットという言葉が、滋賀県だけではなく日本全国に浸透していない。糸賀一雄さんにもっとスポットを当ててもいいのでは。滋賀県民でも知らない人が多い。中学校で、糸賀さんに関する事を授業に取り入れるなど、滋賀県民では知らない人がいないようにして欲しい。
- ベネチアビエンナーレでは、4年ほど前にアール・ブリュットに注目していた。日本のアール・ブリュットのアーティストを、フランス人の映像作家が撮影し、ドキュメンタリーが上映されたり、狭い美術の世界では、世界中が日本のアール・ブリュットに注目し始めている。どんどん発信してほしい。
- 最近、テレビで近江学園のドラマをやっていた。昔に比べると、出演される施設利用者の方も増えてきている。変に隠さずに、見える環境が出来てくれば良い。
- ローザンヌにはレマン湖があり、アール・ブリュットが盛んな美術館があり、観光も活発にやっている。観光も含めて、総合的に検討してみる必要があるのでは。
- 滋賀県は材料がたくさんある。色々な分野をミックスして新しい文化を生み出す。例えば、伝統芸能と若者のパフォーマンスを組み合わせる等。そういうことが滋賀県には必要だと思う。コーディネーターやマネジメントが出来る人が必要だが、新しい形が生まれる可能性は十分ある。
- 複合的な政策効果を目指す。部局間連携、市町との連携を強める。県民各層の参画を求めた事業を考案する。純粋な芸術至上施設という意識をやめ、施設の専用目的以外の事業を考え、関連する政策効果を意識した関連事業を増やす。こういうことを進めて欲しい。